氏　　名	：中村　智子
学 位 の 種 類	：博士（看護学）
学 位 記 番 号	：博看第11号
学位授与の要件	：学位規定第４条第１項該当
学 位 論 文 題 目	：思春期にある先天性難聴の子どもの様相
	：～難聴学級に通う子どものエスノグラフィー～
研 究 指 導 教 員	：教授　大島　久二
論 文 審 査 委 員	（主査）田中　留伊
	（副査）内山　孝子、久保　恭子、宮本　千津子、大島　久二

論文審査結果の要旨

本研究は思春期にある先天性難聴の子どもの様相を明らかにすることを目的に、関東圏の難聴学級が特別支援学級として併設されている中学校を研究フィールドとして、参加観察と半構成的面接法を用いて調査が行われた。

その結果、教室で過ごしている難聴の子どもたちと難聴学級で過ごしている子どもたちの様相に大きな違いがみられた。教室で過ごしている子どもたちは、仮面をつけているかのように無表情で、クラスメイトと難聴の子どもたちとの間に時間のズレが生じていた。うまくやり取りできなかった経験は難聴の子どもたちとクラスメイトとの双方に影響し、近づく怖さという感情が相互作用を引き起こし、お互いに自己保身を図り距離を作っていた。

一方、難聴学級における子どもたちは、その時の自分の気持ちのままに行動し、ありのままの気持ちや感情を表出していた。ありのままでいられる難聴学級と仲間の存在が、難聴の子どもを支え、居場所と仲間が原動力となり、支えられながら時間をかけて困難を受け止め、難聴である自分にゆっくりと歩み寄ることが示された。

これらの結果は、難聴の子どもがありのままに生き成長発達していく上で、必要なサポートや看護を見出す重要な視点であると考えられる。

以上より、本論文および審査会における質疑応答を総合的に勘案し、学位規定第４条第１項に定める博士（看護学）の学位の授与に値するものと評価した。

令和３年２月２日

論文審査委員（主査）田中　留伊